

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295800128		
法人名	株式会社 だんらん		
事業所名	スローライフ汐見台		
所在地	静岡県牧之原市汐見台14-1		
自己評価作成日	令和5年6月26日	評価結果市町村受理日	令和6年9月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JiyouyoCd=2295800128-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和5年7月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅街にあり、静かでどかな場所に面し、近くには小高い山の公園があります。季節の花々が咲き住民の散歩コースにもなっています。地域の避難場所にもなっていて安心して暮らせる施設です。認知症になっても思い出のある地域で、仲間と一緒に笑顔で暮らせるよう支援していきます。一人一人の思いや願いを受け入れ、出来る限り利用者様に沿った支援を行います。地域の病院との連帯をとり、緊急時の対応に備えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

紫蘇、梅のジュース作りに精を出し、洗濯物たたみや縫い物に勤む人、ソファーでの語らいに笑みがこぼれる人、真剣な眼差しで将棋盤に向かう人など、それぞれが心地よい居場所を持ち、一日のほとんどを過ごすリビングには潤いがあります。通所介護での経験が豊富な新管理者が着任し、地域の伝統行事や食の歳時記を継承するスローライフに、指先を使ったパズルや制作、体操が充実し、メリハリが加わりました。また新管理者は、市内40以上の介護保険事業所から成る事業所連絡会役員を拝命して年6回の役員会と勉強会に臨み、ここで得た知識や情報を今後の事業所運営に活かすべく奮闘しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	意識し努力している。	玄関に「道標」「事業運営の基本方針」が掲げられていますが、共有方法については方策を練っている段階にあります。4月より着任した新管理者は「意識統一してケアに専念するためにも大切なこと」としています。	理念についてあらためて職員間で議題とし、実践につなげられることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年からコロナ緩和になった為毎年恒例の6月に行われる地域の草取り避難訓練を利用者様と職員とで参加しました。	地域清掃では利用者2名と職員で事業所周辺の草取りをおこなって近隣住民と挨拶を交わしています。5月から通常開催となった運営推進会議には、区長、民生委員2名の出席を得ており、認知症カフェも再開予定です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェは、提供場所がない為休止しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3月までコロナの為書面のみ送付していました。	今年度より対面での開催となり地域代表と行政、家族が参加する中で事業所の現況やヒヤリハット、事故報告書を開示するとともに2ヶ月間の写真を添付して暮らしの様子を伝えています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要がある場合には、相談窓口相談している。	運営推進会議には毎回市長寿介護課の出席があります。一人暮らしからの入居には地域包括支援センターとの連携を密にとるとともに、牧之原市事業所連絡会役員を拝命し、年6回の役員会と勉強会に臨んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当施設は身体拘束0宣言をしている施設です。利用者様の尊厳保持に努め、不適切ケアを目指しています。	身体拘束廃止委員会では「規程及びマニュアルの見直し」「虐待又は身体的拘束等の調査・検討及び対策」「日常的ケアの見直しから尊厳あるケアがおこなわれているかを検討」と定めた指針にもとづいて検証しています。	規程、マニュアルの見直し、身体的拘束等に関する現状の確認はおこなわれていますが、「尊厳あるケア」について話し合いが進められることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関係法についての学びの機会を持つことがなかなか難しい状態であるが、虐待を見逃すことがないよう、身体、精神状態には気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の中に権利擁護を使用しなくてはならない方がいるため、市の職員に相談し、権利擁護の制度の理解をふかめた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に家族に十分な説明をしている。また、その都度、質問等があれば伺っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見を伺い、要望があれば日頃の介護に反映させている。	請求書に同封する通信には、レクリエーションに興じる姿や役割をこなす日常の写真を掲載し、通院介助の協力を仰いだ家族からは丁寧に結果を聞き取って、話に耳を傾ける職員の姿勢を訪問日に確認できました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、職員からの意見や提案を聞いている。反映できていることは、行っている。	月に一度グループホーム会議おこない、個別ケース検討やヒヤリハット・事故報告から原因分析や再発防止のための改善策を協議し、レクリエーションや行事食、季節行事のアイデアには職員意見が活かしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めよう様、努力しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の希望があるものには、会社が積極的に協力し、希望する研修に参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いつかまだわかりませんが 耳より会を開催予定。介護事行所連絡会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の言葉に耳を傾け、しっかり受け止め、信頼関係が早期に作られる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や不信感を持たせないよう、初期に信頼関係を築く努力をする。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者の思いをくみ取り、共に生活する者として関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まではコロナの為外出もあまりできていませんでした。今は散歩や家族などの法事などの外出へ行っています。	自宅で営まれた法事に出かけ、親戚の面々と久しぶりに顔を合わせて喜ぶ人や、洗濯物たみ、縫い物、紫蘇や梅ジュース作りに精を出す人、将棋盤に向かう真剣な眼差しなど、活き活き暮らす支援が光ります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中、関係性を把握し、その都度臨機応変に対応し、努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族様が相談に見えたら、必要に応じ相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の言葉に耳を傾け、しっかり受け答えをし、信頼関係の構築に努めている。思いを把握する努力は、いつも職員同志が相談し、できる限り実地している。	利用者ごとの特徴を記入した一覧表には、職員それぞれの視点で捉えた利用者像が描き出されています。昼食後には利用者の隣に職員も腰かけて談笑し、ふとした時のつぶやきを記録に収めて情報共有しています。	モニタリングやアセスメントなど、職員が介護計画に係る書面作成に携わることを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居情報にて把握したり、不明時はケアマネに伺っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人が趣味活動やお手伝いなどできる限り能力を生かし、心身体力の状態等毎日把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人一人をよく観察し、課題やケアについての話し合いを職員同士せん抽出しモニタリングしている。	現在計画作成担当職員養成過程にあり、併設する小規模多機能型事業所の介護支援専門員が介護計画を作成しています。利用者の様子や変化を職員から聞き取り、支援経過を読み込んで半年ごとに見直しています。	介護記録の標準化とともに、介護計画に則ったサービスの提供と介護記録の重要性について職員間で再認識が図られることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過記録は個別に記録し、問題点は話し合い、気づきや情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域支援、ボランティア団体の把握はしているがコロナの為にできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	納得された、うえでかかりつけ医に受診されている。	全員がかかりつけ医を継続し、受診支援は家族がおこなっています。受診の際はバイタル表や、必要事項を記入したメモを手渡し、受診の結果報告は看護師または日勤職員が口頭で受け、医療記録に記録しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援してる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面談はできないが、電話、FAX等で情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族には、十分な話し合いと説明をし理解していただいているが、地域との関係者とは支援に取り組めてはいない。	契約時に重度化した場合の対応について説明・了承を得ています。入院を機に事業所での生活が困難となり、特養への転居という流れが現状で、看取りの実績はありませんが職員の意識統一も課題としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基本的な応急処置はできてますが、実践力がついていないため、今後研修をする予定です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災訓練には、参加しています。	夜間想定を5月、地域防災訓練がおこなわれる12月の年2回、併設の小規模多機能型事業所と合同で実施しています。指定避難場所まで職員と利用者6名で出向き、地域住民から「助け合い」の声ももらえています。	備蓄管理の整理及び訓練メニューを洗い出し、職員全員が体験して熟練度を高めることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛は丁寧に、傾聴しています。	失敗しないよう早めに対処した排泄の声かけが無理強くなっていないか、耳が遠い利用者へ無為に大声で呼びかけていないか等、研修資料をもとに日頃の対応に潜む不適切ケアを職員間で省みています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の自己決定を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースも尊重し、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思で衣類や、髪型を選択してもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の支度は行ってはいません。お手伝いでお盆拭きやお茶碗拭きをお手伝いして頂いています。	食事は専任職員による手作りで、旬の食材を取り入れ、七夕やえびす講など行事食を大切にしています。食前には職員が穏やかに主導する口腔体操に集中し、静かな音楽が流れる中での落ち着いた食事風景です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず誘導し、ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	情報を共有し、自立に向けて支援している。トイレで排泄ができるよう支援している。	自立している利用者は1名のみで、衣類の上げ下げやトイレまでの付き添い等が必要です。紙パンツ使用だった人でも、排泄パターンを把握する過程で失敗がないことがわかり、布パンツに移行できた例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否の方に対してのみ、利用者のタイミングに合わせて入浴している。	1日4名程、午前中の時間帯に週2回を目安とし、隣接する小規模多機能型事業所との調整で機械浴での入浴も可能となっています。拒否の強い人には職員との相性や時間帯、誘う言葉を工夫してトライしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一部の職員のみ努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好みに応じ室内で楽しめるよう対応しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺の散歩、家族の面会は支援しています。	コロナ禍で定期的にはできていませんが、外に出たい気持ちに寄り添って事業所周辺を歩くようにしています。桜の季節には入口まで徒歩1分の小堤山公園を散策し、100円ショップでの買い物を楽しむ日もあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	物取られ、紛失を避けるため、所持は行っていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごせるように工夫しています。	午前中は脳トレやぬり絵に取組み、午後はソファでくつろいだり、洗濯物たたみに勤しんだり、それぞれに心地よい居場所となっています。七夕飾りの短冊へ願い事を書き込む表情は巡る季節を慈しみ和やかです。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	しています。	ベッド、エアコンを備付け、愛着あるタンスや椅子、額入りの思い出が深い写真やアルバムが持ち込まれています。就寝時の照明は「真っ暗でないと眠れない」「豆電球はつけておいて」など、個々の要望に沿っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	安全に自立した生活ができるように支援しています。		